

## 部屋が森の中になる、 そよ風のような音色の よし笛

### NPO法人「地域と自然」

体験工房ちよいまる、よし笛カフェ、  
エコキャンプ場を運営中

目をつむって聴いていると、森  
の中にあるような気分になる、やさ  
しい音色の笛がある。琵琶湖や伊勢湾

へ注ぐ川の河口でもよく見られる、葦  
(よし・あし)で作られたよし笛だ。

聴かせてくれたのは、名張市で赤  
目四十八滝キャンプ場を運営しながら

2008年10月によし笛ユニット「ちよいま

るず」を結成したNPO法人「地域と自然」の中

西崇雄さん(48)と横山悦子さん。キャンプ場に

作ったよし笛カフェ「自然のめぐみ」を中心に演

奏活動をしている。

二人がよし笛を吹くようになったのは、自然家と  
して自然の魅力をたくさんの人に伝えようと活動す  
るなかで、より親しみやすく伝えたいと考えたから。

「水辺で観察会などのイベントをしていたとき、ここで  
音楽があればいいな、と思ってた」という中西さんが気軽  
に持ち運べる自然素材の楽器を探したなかで、水辺の植

物である葦で作られた笛があることを知り、購入した。川

の環境を伝える紙芝居をイベントで上演したとき、展開を  
盛り上げるために吹いたら評判がよく、本格的に演奏しよ

うと「ちよいまるず」を結成。カフェ「自然のめぐみ」などで

毎月1回、よし笛コンサートを開くようになった。

同じ自然素材の竹笛と比べ、よし笛はより繊細でやさしい

音が出る。かすかに震えるようなゆらぎのある音色は自然そ

のもののよう心地いい。「音はけっこう簡単に出るのですが、

吹き方によってより人の心に届けられるんだな、とだんだんわ  
かってきました。聴いてくれる人が喜んでくれるので、もっと上  
手になりたいと思う」と横山さん。

演奏するのは、多くの人に親しまれているポップスの名曲が多  
い。3年間は必ず続けようと決めているよし笛コンサートを重ね  
るにつれ、レパートリーは30曲以上に増えた。  
やさしい音色に安らぎ、素朴になった心に名曲の情感がしっと  
りと響く。感動した客から「ここに来れない遠くの親戚や仲間  
にも聞かせたいからCDを作ってほしい」という要望を受け、去年  
から今年にかけて2枚のCDを自主制作した。今年1月に作った  
2枚目のCDには、曲の合間に野鳥のさえずりや源流のせせらぎ、  
琵琶湖の風の音など自然の音や、二人が手づくりした自然素材の楽  
器の音も入れ、より自然の世界を楽しめるようにした。

さらに四日市市のインディーズレーベル「NONROOF REC  
ORD」から誘いを受けて、春には第3弾のCDも同社から出す予  
定。その中には、オオルリの鳴き声に惹かれて作ったオリジナル曲  
「小さな幸せ」も収録するという。

「カフェでよし笛のCDを流していて、都会から来たお客さんが『癒  
される』と言ってくれるのがすごくうれしいです」と横山さんはつ  
こり微笑む。中西さんも「自分の中にある自然を思い出すことで、人  
の中に潜んでいるやさしさを取り戻してもらえたら」と、よし笛の演  
奏に込めた願いを語る。

大阪湾に流れる淀川水系の源流部である名張は、自然がとても豊  
かなところ。二人はそこから三重や全国へ、さらに世界へ、NPO  
の理念「自然の心を人のこころへ」を伝えていこうとしている。



繊細で独特のゆらぎがあり、自然の中に  
引き込まれるような音色を出すよし笛。  
中西さんは手づくりもしている。



曲によって異なるが、主に中西さんが  
メロディを担当し、横山さんが伴奏する。  
自然に溶け込むようなよし笛のハーモニーが  
森の中ではいっそう美しい



ホー、ホーとフクロウの鳴き声のよ  
うな音が出る竹の笛を吹く中西さん  
と、バードコールを奏でる横山さん。  
いずれも二人の手づくりだ。



自然に親しめる活動とし  
て、自然素材を使ったお  
いしい手づくり体験も催  
している。パウムケー  
ンや石窯ピザ・パンづ  
くりなどが人気だ。